

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「インベスコ 店頭・成長株オープン」は、
このたび、第23期の決算を行いました。

当ファンドは新興市場（JASDAQ市場、東証マザーズ等）上場銘柄を中心とするわが国の株式を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の成長を目標として、積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第23期末（2016年12月21日）	
基準価額	34,271円
純資産総額	8,782百万円
第23期	
騰落率	14.1%
分配金（税込み）合計	250円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。



インベスコ
店頭・成長株オープン
追加型投資／国内／株式



交付運用報告書

第23期

（決算日 2016年12月21日）

作成対象期間（2015年12月22日～2016年12月21日）

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番 1 号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

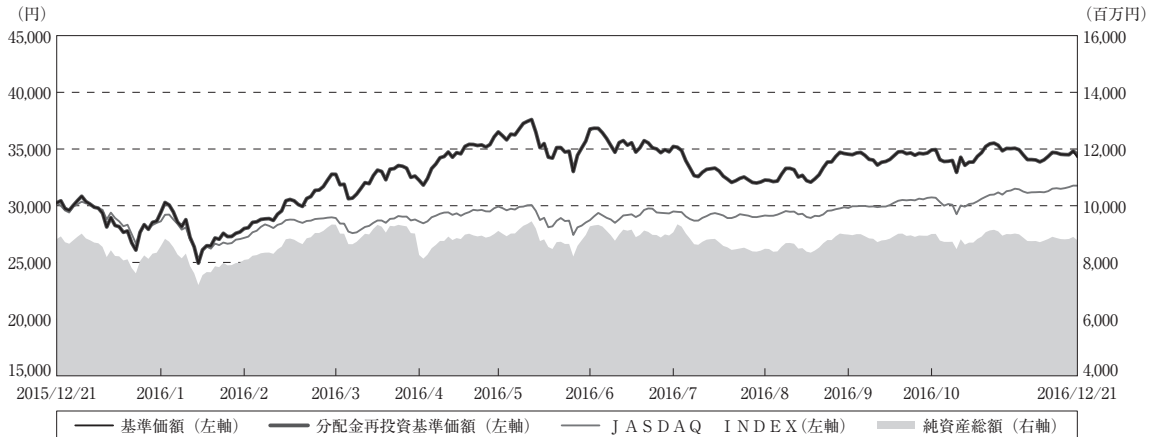
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100
（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2015年12月22日～2016年12月21日)



期 首：30,255円

期 末：34,271円 (既払分配金 (税込み)：250円)

騰落率： 14.1% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびJASDAQ INDEXは、期首 (2015年12月21日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ベンチマークはJASDAQ INDEXです。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・新興市場 (JASDAQ市場、東証マザーズ等) 上場銘柄を中心とするわが国の株式を実質的な主要投資対象としているため、2016年2月以降、新興市場を中心に株価が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・ボトムアップ・アプローチにより高い利益成長が見込まれる企業の中から、成長性を勘案した株価の割安度などを考慮して銘柄選定をした結果、ペプチドリーム、アカツキ、ブイ・テクノロジーなどの株価が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・業績見通しが市場見通しを下回ったあい ホールディングスやエイチ・アイ・エスなどの株価が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

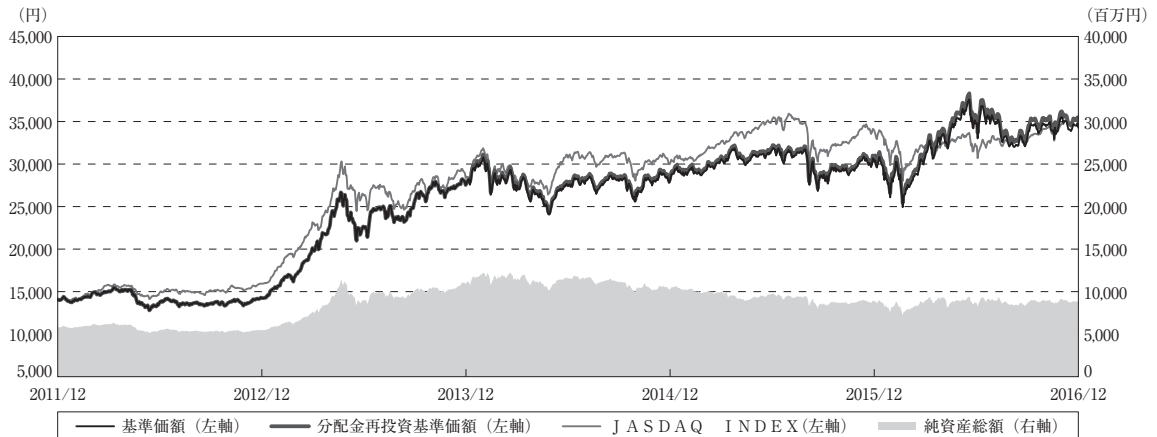
(2015年12月22日～2016年12月21日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 359 (197) (126) (36)	% 1.080 (0.594) (0.378) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	94 (94)	0.283 (0.283)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (そ の 他)	3 (2) (0)	0.008 (0.007) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	456	1.371	
期中の平均基準価額は、33,212円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年12月21日～2016年12月21日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびJASDAQ INDEXは、2011年12月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年12月21日 決算日	2012年12月21日 決算日	2013年12月24日 決算日	2014年12月22日 決算日	2015年12月21日 決算日	2016年12月21日 決算日
基準価額 (円)	14,087	14,282	27,565	28,878	30,255	34,271
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	300	0	250	250
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.4	95.1	4.8	5.6	14.1
JASDAQ INDEX騰落率 (%)	—	13.4	75.5	8.4	11.4	5.0
純資産総額 (百万円)	5,841	5,483	10,785	10,551	8,822	8,782

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ベンチマークはJASDAQ INDEXです。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

投資環境

(2015年12月22日～2016年12月21日)

JASDAQ INDEX	+5.0%	日経平均株価	+2.8%
TOPIX (東証株価指数)	+0.9%	東証マザーズ指数	+5.8%

※株価指数の騰落率は当期末時点（対前期末比）の数値です。

当期の中小型株式市場は急落後に反発し、期を通じては前期末の水準を上回りました。

期初より原油価格の急落などを背景に信用リスクが意識され、2016年2月半ばまで乱高下する展開となりました。米国の9年半ぶりの利上げや日本銀行の新たな金融緩和政策が発表されましたが大きな材料にはならず、円高が進む中、主力株は反発力に欠ける展開が続いた一方で、新興国経済の不透明感や円高進行を受け中小型成長株に資金移動が見られる中、一部の成長株は株価が大きく上昇しました。6月には英国の欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票の結果、EU離脱派が勝利したことなどを受けて急落する場面もありましたが、大型補正予算などへの期待から株価は持ち直しました。8月末には米連邦準備理事会（FRB）高官の発言から米国の早期利上げ観測が高まり、円安が進行する中で株式市場もしっかりとした値動きとなりました。11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利した後は、新政権の経済政策期待などから円安が急速に進み、日本の株式市場も大きく上昇して期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2015年12月22日～2016年12月21日)

主としてインベスコ 店頭・成長株 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて、新興市場（JASDAQ市場、東証マザーズ等）上場銘柄を中心とするわが国の株式に投資を行いました。

マザーファンドでは、時価総額約100億～2,000億円の企業に加え、新規公開銘柄をユニバース（投資対象銘柄群）とし、ボトムアップ・アプローチにより高い利益成長が見込まれる企業の中から、成長性を勘案した株価の割安度などを考慮して銘柄を選択しました。

期初より、円安基調の一服や新興国経済の減速の影響で景況感の悪化を懸念し、景気敏感銘柄の組み入れを引き下げ、利益成長率が高いと判断した銘柄の組み入れを引き上げました。個人消費関連銘柄については、消費の減退への懸念から、組み入れを低位としていました。

2016年3月以降は、高成長銘柄が物色の中心となる中で、保有銘柄のうち株価が大幅に上昇したものが散見されたことから、利益確定売りを実施するなどして銘柄の入れ替えを行いました。6月には英国のEU離脱の決定を受け円高が加速した時期から、内需の成長株について利益確定の売却を一段と進める一方で、円高を嫌気して株価が調整していた外需のハイテク銘柄の組み入れを引き上げました。米国大統領選挙後はさらにハイテク銘柄の組み入れを高めました。また、当期もアカツキやLINEなどの新規公開銘柄にも積極的に投資しました。

以上のような売買を行いながら、期を通じて株式組入比率を90%～97%程度に維持して運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年12月22日～2016年12月21日)

当期の基準価額騰落率（分配金込み）は+14.1%となり、ベンチマークであるJASDAQ INDEXの騰落率+5.0%を上回る結果となりました。

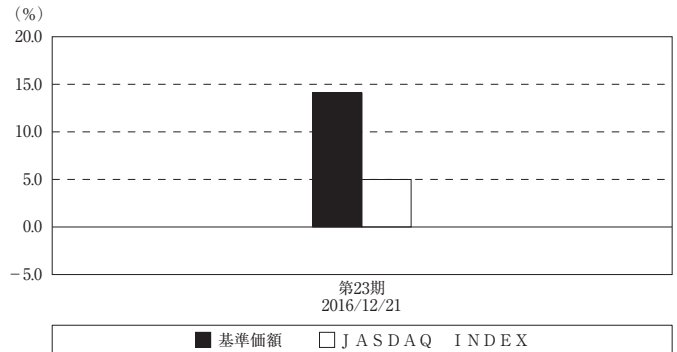
[プラス要因]

- ・個別銘柄では、ベンチマーク非構成銘柄であるペプチドリーム、アカツキやネクシーズグループの組み入れなどがプラスに寄与しました。
- ・「電気機器」「機械」「サービス業」の銘柄選択などがプラスに寄与しました。

[マイナス要因]

- ・個別銘柄では、ベンチマーク非構成銘柄であるあいホールディングスやディー・エル・イーの組み入れ、ベンチマーク構成銘柄であるセリアを非保有としていたことなどがマイナスに影響しました。
- ・「卸売業」の銘柄選択、「機械」をベンチマーク以下、「ガラス・土石製品」をベンチマーク以上の組み入れとしていたことなどがマイナスに影響しました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率比）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) ベンチマークは、JASDAQ INDEXです。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

分配金

(2015年12月22日～2016年12月21日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、当期は250円（税込み）とさせて頂きました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第23期
	2015年12月22日 ～2016年12月21日
当期分配金	250
(対基準価額比率)	0.724%
当期の収益	250
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	24,270

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドへの投資を通じて、新興市場（JASDAQ市場、東証マザーズ等）上場銘柄を中心とするわが国の株式に投資を行います。

マザーファンドでは、時価総額約100億～2,000億円の企業に加え、新規公開銘柄をユニバース（投資対象銘柄群）とし、ボトムアップ・アプローチにより高い利益成長が見込まれる企業の中から、成長性を勘案した株価の割安度などを考慮して銘柄を選択してポートフォリオを構築します。

今後の日本の株式市場は堅調な展開を想定しています。米国大統領選挙後に一気に上昇した反動で短期的には株価の調整があるものの、中期的には米国で予想される新政権の経済政策により、世界の投資環境は大きく変化すると考えています。円安の進行は日本企業の業績を押し上げるほか、デフレからインフレモードに大きく変化しており、これらを受けて株式市場は上昇基調を続けるとみています。また、為替の動向を考慮すると2017年7～9月期が製造業の増益率のピークになる可能性が高く、株式市場はこれを織り込む形で前半の上昇率が大きくなると予想しています。

以上の投資環境の見通しの下、ファンドの運用では、成長ドライバーが明確で2017年度も高い利益成長が見込まれる銘柄群を中心とした現在のポートフォリオ戦略を維持する方針です。

お知らせ

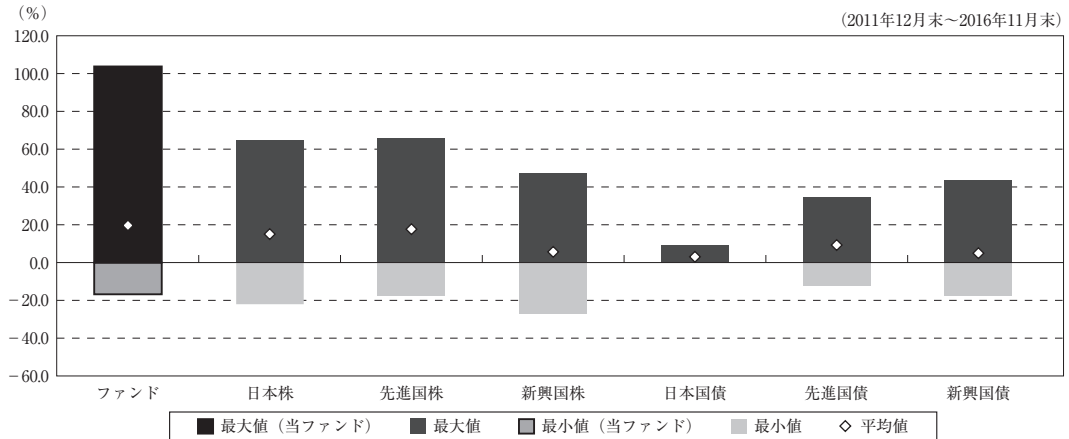
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・主として「インベスコ 店頭・成長株 マザーファンド」受益証券への投資を通じて、新興市場（JASDAQ市場、東証マザーズ等）上場銘柄を中心とする成長性溢れるわが国の株式などに投資し、投資信託財産の成長を目標に積極運用を行います。 ・JASDAQ INDEXをベンチマークとします。 	
主要投資対象	インベスコ 店頭・成長株オープン	「インベスコ 店頭・成長株 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ 店頭・成長株 マザーファンド	主として新興市場上場銘柄を中心とするわが国の株式などに投資します。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、新興市場（JASDAQ市場、東証マザーズ等）上場銘柄を中心とする成長性溢れるわが国の株式などに投資を行います。 ・継続的な高い利益成長によって、主として新興市場から比較的早く東証一部へ上場していくと見込まれる企業に中長期的に投資します。 ・銘柄の選定に当たっては、ボトムアップ・アプローチにより高い利益成長が見込まれる企業の中から、成長性を勘案した株価の割安度などを考慮します。 	
分配方針	原則として年1回の毎決算時（12月21日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	19.7	15.1	17.7	5.7	3.1	9.3	5.0
最大値	103.8	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-16.7	-22.0	-17.5	-27.4	0.5	-12.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年12月から2016年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株: TOPIX (東証株価指数) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債: NOMURA - BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年12月21日現在)

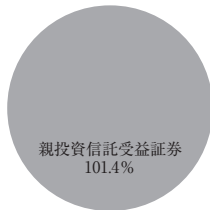
○組入上位ファンド

銘柄名	第23期末
インベスコ 店頭・成長株 マザーファンド	101.4%
組入銘柄数	1銘柄

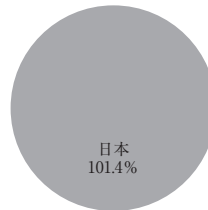
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

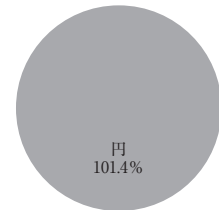
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

純資産等

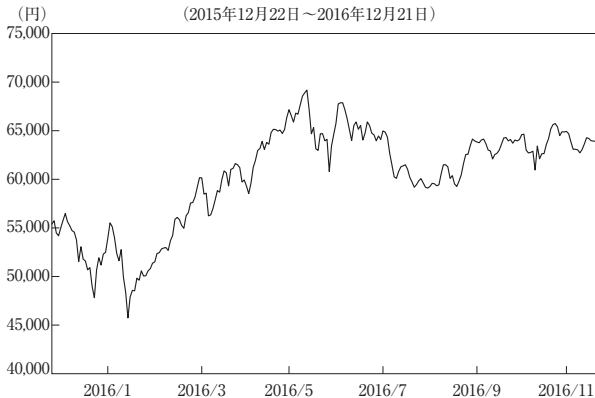
項目	第23期末
	2016年12月21日
純資産総額	8,782,209,658円
受益権総口数	2,562,581,914口
1万口当たり基準価額	34,271円

* 期中における追加設定元本額は1,053,964,386円、同解約元本額は1,407,555,659円です。

組入上位ファンドの概要

インベスコ 店頭・成長株 マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年12月22日～2016年12月21日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	170円 (170)	0.278% (0.278)
(b) その他費用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	170	0.278

期中の平均基準価額は、61,172円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2016年12月21日現在)

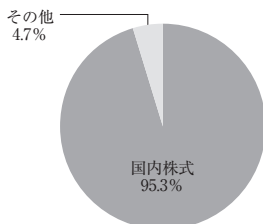
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	あい ホールディングス	卸売業	円	日本	4.9
2	大崎電気工業	電気機器	円	日本	4.8
3	ペプチドリーム	医薬品	円	日本	4.0
4	MARUWA	ガラス・土石製品	円	日本	3.7
5	ジャパンマテリアル	サービス業	円	日本	3.7
6	トプコン	精密機器	円	日本	3.7
7	イオンファンタジー	サービス業	円	日本	3.2
8	ヨネックス	その他製品	円	日本	3.0
9	フルキャストホールディングス	サービス業	円	日本	2.7
10	エイチ・アイ・エス	サービス業	円	日本	2.6
	組入銘柄数			51銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

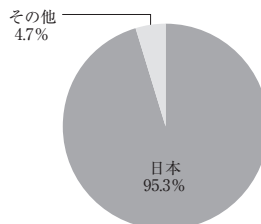
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

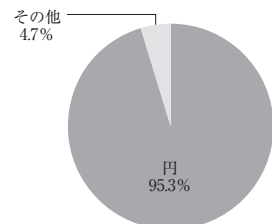
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※ マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

ベンチマークであるJASDAQ INDEXとは、JASDAQ市場上場の内国株式銘柄（新株予約権証券、算出対象除外後の上場廃止が決定された銘柄、算出対象組入前の新規上場銘柄等を除きます。）を対象として、株式会社東京証券取引所が算出・公表する株価指数の一種であり、同市場に上場されている株式全体の株価動向を表す指標です。JASDAQ INDEXは、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社（以下、「東証等」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関する全ての権利・ノウハウは東証等が所有しています。なお、本商品は、東証等により提供、保証又は販売されるものではなく、東証等は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2017, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.